おとりずこと 一人言半生記(一)

山口県出身の竹中さん(70)にお話を伺った。〜あてもなく彷徨う町の path の上で星を眺める日々の中、名も知らぬ老夫婦の世話でうどんや菓子パンをご馳走になった。鉛筆削りが得意だったから板前になった自分は京橋で暮にについた。山口県から京橋まで通勤したのか？少し遠い気もするが。まあいい。いや、その時は西成か。兄は大阪にいた。母もいたような気がする。姉もいたのか？父はどこにいる？広島にいたのか？自分は酒は飲まないがタバコは吸う。で、入院したこともある。どこの病院だ？余談だがカラオケが苦手だ。幼少の頃は故郷で畑仕事を手伝っていた。西成に来て施設も転々とした。天六の施設な気もするが？どこにいたのか？で、ズボンの裾上げやボタンの縫い付けも自分でする。で、老夫婦にお世話になるような気がして高度経済成長真っ只中の昭和39年頃に西たところで原点に立ち返り、彼は「引っかけ」と言う技を使う為に相手の投げ入れるコマを遅らせて相手のコマを紐に引っ掛けて外に弾き出す技を使う。彼は今日も戦い続けている。

バイ王 日本のものづくり原点

「くっそー！」悔しさに地団駄を踏んだ。バイ(ベーゴマ)が強く、自分でコマを買った事が無いという松虫中学に通う田中康吉君(14)も、負ければバイは相手のものだ。バイとはゴミ箱を伏せ、上にゴザを敷き、手の内に収まる大きさの鋳物のコマを回し相手のコマを弾き出す遊びである。技術が拮抗し合うと、相手に勝つ為にコマ自体の改造が始まる。ライバルの先輩は鉄工所で働いているため重い鉄の素材でコマを改造していたのだ。悔しくて彼はコマを下に潜り込ませる為にヤスリを掛けて全体を低くしたりして工夫したものの、素材の重さにはかなわなかった為、結局先輩に頼んで同じ鋼鉄製に改造し、条件が同じとなった。

わいのデッキはこれや!

社説 貯める者 使う者

記憶の流通

取材でいろんなお話を伺う中で「使う者、貯める者」という話があった。お客さんとしてお金を使うか、商売をして稼いだお金を貯めるかという二つの立場を対比していて、実際どちらが良い悪いではなくどちらも必要なものではあるのだが、貯めた者は今も生き残っているというお話だ。勿論貯めた者が今も貯め続けているかというとそうではなく、今は使っているという事になり、景気の悪い話といえばそれまでなのだが、そうやって貯めたお金を使う事が、現在貯めようとしている者を潤わしているのも確かで、そのようにして社会は成り立っている。人は暮らして行く中でいろんな体験をして思い出を貯め込んで行く。たくさんの経験をして思い出や体験を貯め込んでいても、お金と違ってなかなかそれを使う事ができないでいる場合も多く、せっかくの体験を埋もれたままにしてしまっている。取材をする我々は、そんな埋もれてしまいそうなお話を伺い、記事を書く事でその思い出や体験を稼いでは使っていき、少しだけ社会を回す事につながればと願っているのだ。

未人広告 新聞記者

西成なるへそ新聞 男女問はず・経験不問 山王一の五の三一 新福寿荘内

ブレーカープロジェクト

〒558-0045 大阪市住吉区 TEL:070-5044-8647

町名変更

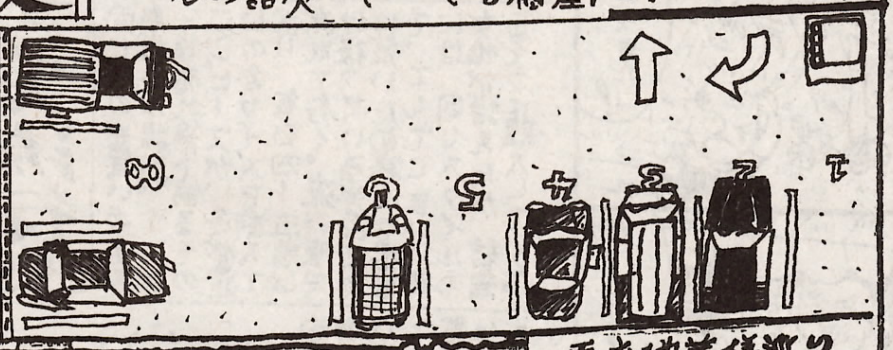
東田町⇒太子

ムラタケさんは、近くの太子地蔵にお花を飾ったり水をあげたりと月参りを欠かさない。お菓子屋のお父さんの代からのことだ。明治初頭まで飛田には墓地があった。大坂の陣による戦死者をはじめ処刑された罪人や無縁仏の霊を供養するためにできたという。石の地蔵尊は坐像で、台座をあわせた高さが2mほど。側には無縁塔碑や来歴を記した古い石碑もあり、堺筋に面したところにある。地蔵盆には子供の名前が入った提灯が吊り下げられ大勢の子供らで賑わう。このほど住居表示の変更で町名が東田町から太子に変わったが今も、信心は変わらない。

ひと

草田武子さん

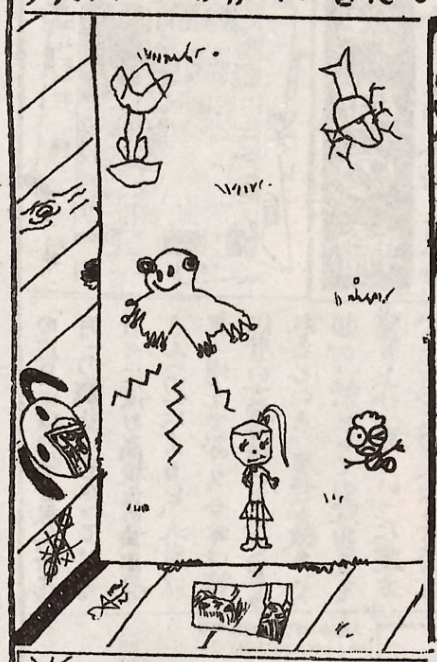
梅酒四十年。梅干しも二十年近く漬けている梅のエキスパートで、今年は五キロ漬けた。おすそ分けを楽しみにする人も多い。秘訣はひと粒ずつ丁寧に扱う事だという。ルーツと言える亡き父の漬けた梅干しがある。古くは三十四年前。一九八〇年ものには、申年の梅は縁起よしとある。俗に還暦梅、甲申年の梅だ。次回の二〇四〇年には武子さんは百歳。その梅を孫やひ孫に食べさせるのが今から楽しみ。



夏の灯り

都会っ子 闇を知る

夕暮れの出来事だった。金塚小学校に通う中西康代さん(10)は母方の実家がある奈良に帰省していた。地元の子とかくれんぼに夢中になって狭い路地に入り込んだ途端、急に気味が悪くなった。大阪の街灯りに慣れた康代さんの目には田舎の暗さがただならないものに思われたのだ。とその時、暗闇の中からふわっと仄青い光が浮かび出て飛んでいった。人魂だ。一緒にいた5・6人の仲間も同じモノを見た。みな興奮を抑えきれないようだ。海のような色だった。橙色も混じっていた。人魂が出たら人が死ぬらしいと誰かが言った。その次の日、風呂屋のおばあさんが亡くなったと、康代さんは後で人づてに聞いたそうだ。



オーエス劇記

永岡芳弘

過日は『文化』としてオーエス劇場の大衆演芸を書いた。そして今日はその役者『沢田ひろし』の人と成りを書いて見たい。ほとんどの役者さんは座員の紹介や次の公演先の案内というトークショーを盛り上げている。しかし彼は大事な行演先については一切言わない。ただ大衆演芸の将来について憂いを持っている。しかし決して自己宣伝はしない。又歌を唄う時は替え歌を入れたり、芝居ではご当地の店なり、名物を上手く取り入れたりと、随所に工夫をこらしている。その下調べの惜い事。又地方巡業での名勝旧跡等、その土地の遺いを説明してくれている。この様な心惜い配慮は他の役者さんには一切ない味わいである。

西成お地蔵様巡り(八)

北向地蔵

北向地蔵は、めずらしいと言われるが、山王では二体いらっしゃる。北向地蔵はよく願いごとが叶うということでお参りする人が多い。いつ頃から祀られているかは定かではないが、近所の人たちが、水とお花を切らさないようにお世話をしている。とても端正なお顔立ちである。

手作りの平和

伊東祐美子さん(29)は念願だったゲストハウス「ぴーすはうす昭和」(山王一)を完成させた。海外をあちこち旅してきた自分が定住し、今度は世界の人を迎える側になろうと、値段が安くて安全で交通の便が良い物件を探すために不動産屋へ就職。やがて西成に手頃な民家が見つかり友人達に声をかけて手作り工事が始まった。当初周りからは労務者専用の安宿ではと誤解されたが、外国人旅行者が主な対象だ。百日に及ぶ改装工事には手伝い人が口伝えで増え、資金援助を仰いだ際に渡り舟だった父親も皆の食事をこしらえに来てくれた。笑顔が増えたのが嬉しい。昭和の雰囲気で演出した宿でこれから沢山の出会いと交流が生まれることが伊東さんの願いだ。

下町情緒あふれるゲストハウス
JR天王寺駅
地下鉄動物園前駅から徒歩10分
ぴーすはうす昭和
山王2-8-4 でんわ:090-9866-2643

コインランドリー タナカ
#13
山王1-5-31
新福寿荘内
アートスペース ジューソー
萩之茶屋本通商店街

畳 ふすま クロス・カーテン カーペット 施工
なにわの名工受賞
森本商店
山王3丁目12-30